

会議録

会議の名称	第5回 西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会
開催日時	平成22年3月9日 14時00分から15時30分まで
開催場所	保谷庁舎 1階会議室
出席者	浜委員、山縣委員、伊藤委員、富岡委員、貫井委員、本橋委員、朝長委員、臼井委員、梅澤委員、櫻井委員 事務局 名古屋生活環境部長、大和田産業振興課長、宮坂課長補佐、稲船主事 関係者（東京都農業振興事務所） 永塚農務課長補佐
議題	(1) パブリックコメントの結果について (2) その他
会議資料の名称	資料1 第5回西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会 会議資料 資料2 パブリックコメントの結果について
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	

1 開会

○会長：

委員の出欠の確認。

○事務局：

大木委員と清水委員は本日所用のため欠席。白井委員は別の会議に出席中の為遅れる。配布資料の確認。

2 議題

(1) 第5回西東京市都市と農業が共生するまちづくり協議会 会議資料（資料1）、パブリックコメントの結果について（資料2）

○会長：

前回の協議会で各委員から頂いた意見を踏まえ、会長、副会長、事務局で協議し修正を行ったものをパブリックコメントで公表した。パブリックコメントでは、市民の方々から複数の意見をもらっている。

○事務局：

2月15日から26日までパブリックコメントを行い、4名の市民から計12件の意見をいただいた。各意見に対しての対応を説明。

○会長：

本日は、パブリックコメントの内容も含めて素案について各委員より意見をもらいたい。

○委員：

全体的にモデル地域が数箇所配置され、プラン全体としてはイメージがしやすい。これから実施計画が始まるが、実施の何をターゲットとしていくのか。生産者の協力は必要不可欠であり、具体的に事業として取り込んでいくのには時間がかかるのではないか。今の状態では5年間の事業イメージがつかないし、時間が足りるのか不安が残る。実施計画はもう少し迅速に行うべきではないか。

○委員：

プラン自体の内容は大変分かり易いと思うが、具体的な計画のイメージが見えてこない。案だけにならないか不安を感じる。安定した収入や採算が取れないと農家の協力を得るのも難しい。緑も残しつつ、農家も明るく楽しく農業が営めるイメージをつくる必要がある。

○委員：

農地をどのようにして保全していくかがまちづくりプランのテーマだと思う。このまちづくりプランでは、西東京市の農業・農地の現況が図化されていて分かり易い。ここで述べてある取り組みを既に行っている農家もあり、まちづくりプランの中で、完成度が

高い取り組みや形だけの取り組み等分類をして、更に課題を洗い出していったらどうか。今の段階では具体的な計画のイメージが見えてこなくても良いのではないかと。

○委員：

このまちづくりプランは、内容がよく整理されており、農業を守る・共存することをしぼりこまれている。これから具体的な計画を考えていけばいいのではないかと。

○委員：

方針と目的を整理して図化しているところなど、協議会の回を重ねるごとによくまとまってきている。特に保谷駅南部エリアは、小学校がエリア内に複数あり、その点を踏まえてプランを作成してあるのが良い。

○委員：

事業展開のルート図等、よくまとめられている。事業1年目では完璧にはできないと思うので、次年度以降少しずつ進めていけばいいのではないかと。みどり公園課が緑確保のために屋敷林の保全を行っており、まちづくりプランと相互連携を図れば、更に取り組みとしても良くなるのではないかと。

○委員：

来年度以降の実施計画について問題視されているが、44ページに実施に向けての内容が説明されているかと思うので、もう少し具体論を展開してある方が良かったのではないかと。

○委員：

東京都の立場から言うと、28ページのリーディングプロジェクトを今後4年間で実施するにあたり、取り組み内容を実現する協議会を立ち上げる必要があるかと思う。すぐに取り組めるもの、時間をかけて取り組むもの等の分類を行い、検討するために来年度以降も協議会が必要となってくるので、関連部署と分担をして調整を図ることが大事である。このまちづくりプランは、他の自治体のものと比較をすると大変よく出来ていると思う。

○副会長：

全体的にプランとしてはよくまとまっていると思う。委員の皆さんが懸念している事業としての実現については、時間が必要になってくる。先程委員から発言があったように、事業の仕分けをして優先度の高いものから順次来年度から取り組んでいけば良いのではないかと。

○会長：

本協議会は大変大きく意味のあるものだったと思う。協議会を通じて2つの課題が見つかったかと思う。一つ目は、幅広い視野で都市農地のあり方を多面的機能からとらえること。二つ目は、具体的な5ヵ年事業として限られた時間の中で抽象的なものとして終わらないために、モデルプランとして地区を選定し、実現性を追求していくこと。委員の皆さんの意見は同じ方向に向かっており、本協議会の意思が市民、農業者や行政とつながるのではないかと。事業を具体的に進めるには、このステップが大事であり、行政

が事業を具体的に進めていく中で課題が出てくるかと思う。余談になるが、西東京市の市民一人当たりの公園の面積は、近隣の市と比較すると少ないと指摘をされており、三鷹市の2分の1、武蔵野市の3分の1、小金井市の5分の1という現状がある。そのような中で農業公園や屋敷林等のアイデアが出てきているので、農業の多面的側面が指摘できたのではないかと。個人的な意見としては、このプランを次年度以降の実施計画にどのように活かしていくのかということが大きな課題になるかと思う。先程委員から指摘があった、44ページのみが今後に向けての説明なのかということについては、6章全体が今後に向けての内容になってくるのではないかと思う。事務局としては、モデル地区の中で生産者の方の動向や意思確認を進めており、そうした動きが今回の協議会に付随した動きの中で大事なものであったのではないかと。協議会からの意見と市民から寄せられたパブリックコメントでの意見を踏まえて、モデルプランを最終的にブラッシュアップしたいと思う。具体的に修正を加えたい箇所があれば教えていただきたい。

○会長：

この資料の中には、東京都の支援策を活用し行っている旨が記載されていないので、「はじめに」と6章の今後に向けての中に追記してある方が良いのではないかと。

○事務局：

指摘の通りに東京都の助成事業として行う旨追記する。

○委員：

パブリックコメントの意見対応についてだが、意見と回答はどのように公表するのか。

○事務局：

抜粋したものは市報で公表し、それ以外については市のホームページで公表する予定である。

○会長：

最終的にまとめたまちづくりプランはどのように公表するのか。

○事務局：

策定して、公表する。

○東京都：

44ページの今後に向けてだが、平成22年度は実施計画だけではなく、取り組める事業に関しては協働を進めていって欲しい。例えば、めぐみちゃん弁当の開発は実施計画と同時進行で進めていけるのではないかと。

○委員：

東大との調整はどうなっているのか。

○事務局：

2月に東大に具体的な事業の説明を行った。東大とは地域連携を進めるということで合意している。現状はモデルプランなので、4月以降に具体的な実施協議を行う予定である。

○委員：

実施計画の中で行える事業については進めていくということだが、予算はどうなるのか。実際の事業補助の予算は23年度から出るのではないか。

○事務局：

22年度は推進事業で、23年度からは施設整備事業となり、22年度は推進事業の範囲の中でできるものを行っていく考えである。

○会長：

推進事業と施設整備の予算配分は決まっているのか。

○東京都：

現時点ではまだ決まっていないが、整備計画が固まれば決まってくるかと思う。

○会長：

見直しの中で変えていくことは可能なのか。

○東京都：

見直しの中身次第になるかと思う。

○会長：

このモデルプラン（案）がアイディアマップになっているので、隠れた制約事項はないという認識で良いのか。

○事務局：

関係する庁内各課と連携を図っていきたいと思う。

○会長：

その他意見がないようであれば、パブリックコメントと本日の指摘に対する修正については、事務局と会長、副会長に一任を頂きたいと思う。

○委員全員：

一同同意。

○会長：

最後に委員の皆さんから本協議会の感想を頂きたい。

○委員：

来年度のことを心配していたが、実施計画をつくりながら動かせる事業を進めていく

と聞いて安心した。4月以降動けるものは動いていけば嬉しい。このまちづくりプランは、市民にも大変分り易い内容になっており、地域の農業者と市民と一緒に動いていければ良いと思う。是非とも事業として実現していけるように、事務局にもフォローをお願いしたい。

○委員：

このような集まりには初めて参加したが、最初は簡単に気楽に考えていたが、委員の皆さんの真剣な話を聞いて驚いたと同時に都市農業・農地に対しての認識も変わった。参加することができて本当に良かったと思う。この事業が実現していけば、関わった者としては非常に嬉しい限りである。また、自分が知らなかったまちのことを沢山知ることができ、これからは特に西東京市の農家のことをもっと知っていきたいと思う。

○委員：

本協議会には農業者という立場で参加している。現況図面に表されているように、市内でも既に農家が様々な取り組みを行っている。モデルプランの策定に当り、初年度の基礎的な部分を検討する協議会に参加できて良かったと思う。

○委員：

農業者として既にまちづくりプランで提案されている事業の一部を実施しているが、飽きが出てしまうという現実もあるかと思う。あれこれとやりたいことが出てくるので、もっとより良い取り組みを行うために、今後もみんなで協力をしてまちづくりを行っていったらと思う。

○委員：

子ども達にとって農業が身近なものに繋がっていければと思う。地域の方々との接点が今後もっと必要となるのではないか。地域の中で計画を進めていきたいと思う。

○委員：

公園の担当として本協議会を通して、庁内の関係各課との連携を図っていくことの重要性を感じた。

○委員：

西東京のまちは住宅と農業・農地が混合しているのが魅力であり特徴かと思う。まちづくりの担当としては、どのようにして農地を残していくということについて少し役に立つことができたのではないかと思う。

○委員：

東京都の立場としては、非常に良いまちづくりプランができたのではないかと考えている。また、田無出身者としては、地元の東大農場が開放され市民に広く知られ、利用されることを大変嬉しく思う。

○副会長：

農業という分野における農業のあり方は大変難しいことだと思う。西東京市の中でど

うやって農業・農地が共存していけるのかということが課題かと思うが、ある一面での切り口では、このまちづくりプランが解決の糸口につながったのではないかと思う。しかし根本的な問題として税金等の課題はまだ残っているが、農業が残っていくという意味では良いプランになったのではないか。根本的な問題はまだまだ残っているが、協議会を通して解決できる問題ではないが、このようなプランを通じて少しでも都市の農業・農地について認知してもらえれば良いのではないかと感じた。

○会長：

進行役として至らないこともあったかと思うが、委員の皆さんや事務局と協力し、関わる人たち皆の連携があることで出来上がったのではないかと思う。次年度以降も連携がより必要になってくるかと思う。まちづくりに関する取り組みのプロセス自体が一つの成果だったのではないかと思う。都市農業・農地を通じて、西東京市の地域資産というものを実感した。

○名古屋生活環境部長：

西東京市の農業振興に理解を示していただきありがとうございます。まちづくりモデルプランの完成にあたり、次年度以降の事業実施につながることを期待できる出来になっていると思う。市の財政状況等は厳しい状況にあるが、東京都からの支援を受けながら市民、農業者、行政が一体となってより良い農業施策、保全を進めていきたいと思う。今後ともご支援をお願いしたいと思う。ありがとうございました。

○会長：

それでは、本協議会を終了したいと思う。ありがとうございました。

○委員全員：

ありがとうございました。